

令和 5 年 5 月 22 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01298

研究課題名（和文）研究者アーカイヴズ解析による戦後歴史学創出過程の基盤的研究

研究課題名（英文）Fundamental research on the creation process of post-war history through analysis of researchers' archives

研究代表者

後藤 雅知（Goto, Masatoshi）

立教大学・文学部・教授

研究者番号：50302518

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、戦後歴史学の主要な牽引者の1人、故山口啓二が残した膨大な研究史料を悉皆的に調査することにより、1、歴史学研究者アーカイヴズの典型を構築し、その保存・公開の措置を図り、2、その内容解析を基礎にライフ・ストーリーの全体史的な把握を進める中で、戦後歴史学の前提、及びその創出過程を検討した。3、さらに長野県上伊那郡箕輪町の山口啓二・永原慶二らの農村調査関連史跡と史資料の調査を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦後歴史学の主要な牽引者の1人、故山口啓二が残した膨大な研究史料「啓静文庫」の未整理部分の調査を進めた結果、史料全体（保存箱207箱分）のうちの約87%（箱数181、史料数21,882点）の目録作成を終えた。その目録データを体系的に整備し、然るべき保存機関に一括して寄贈する準備を整えた。長野県上伊那郡箕輪町の山口啓二・永原慶二らの農村調査関連史跡と現地の長岡区有文書調査を行い、長岡村研究に必要な史料の収集を網羅的に実施することができた。

研究成果の概要（英文）：In this research, by exhaustively investigating the vast amount of historical research materials left behind by the late Keiji Yamaguchi, one of the main leaders of postwar history, 1. Constructing and preserving a typical archive of historical researchers. We have taken measures to make it open to the public, and have examined the premises of post-war history and the process of its creation, while promoting an overall historical understanding of life stories based on the analysis of their contents. 3. In addition, we researched historical sites and historical materials related to the rural surveys of Keiji Yamaguchi and Keiji Nagahara in Minowa-cho, Kamiina-gun, Nagano Prefecture.

研究分野：日本近世史

キーワード：歴史研究者アーカイヴズ 戦後歴史学 対外関係 日本近世史 近世村落史

1. 研究開始当初の背景

本研究は故山口啓二が残した「啓静文庫」史料を題材に歴史研究者アーカイブズの構築を目指すものである。近年、社会運動や女性史の担い手など、人文学に関わる人物のアーカイブズが徐々に注目されるようになった。しかし歴史学研究者個人のアーカイブズを全体として取り上げる調査・研究は、まだほとんど見ることができない。さまざまな研究機関で進められるアーカイブズ研究では、それぞれの機関に所属した研究者が遺した史料から必要なものを選択・抜粋・収集するというかたちで研究されるにとどまる場合が多い。これに対して本研究は、歴史学研究者個人の遺した史料群全体を一つの構造として解析することで、個人の全体史を明らかにすることを戦略に置いている。そして当該のアーカイブズから内在的に論点を発掘し、見出されたそれぞれの論点を研究主題として、歴史学的に研究を展開しようとする取り組みである。

本研究の課題については、すでに平成 28 年度から 30 年度科学研究費補助金・基盤研究(B)「歴史学研究者アーカイブズの構築と人文学の再生」(研究代表者:荒野泰典立教大学名誉教授)において端緒的に取り組みられ、数多くの成果を上げた。しかし、故山口啓二が残した「啓静文庫」の量は膨大であり、また史料群の階層構造が質的に複雑、かつ内容は多岐に及ぶ。その研究調査は、84%の目録化を終えた書籍類を除き、研究史料については、全体の約 55%に到達するに留まっていた。本研究では、前研究の成果を継承し、歴史学研究者アーカイブズとしての構築を完成させることを目指した。そして前研究において見いだした複数の派生的な調査・研究課題や論点のさらなる展開を図ることを考えた。

2. 研究の目的

本研究は、戦後歴史学の主要な牽引者の 1 人、故山口啓二が残した膨大な研究史料「啓静文庫」を悉皆的に調査することにより、1、歴史学研究者アーカイブズの典型を構築し、その保存・公開の措置を図り、2、その内容解析を基礎にライフ・ストーリーの全体史的な把握を進める中で、戦後歴史学の前提、及びその創出過程を検討することを目的とする。こうして本研究の第一の目的は、「啓静文庫」未整理部分の調査を完了させ、その目録データを体系的に整備し、然るべき保存機関・研究機関などに一括して寄託あるいは寄贈し、保存・公開の措置を講ずることにある。そして第二に、「啓静文庫」史料に見いだされる山里信州長岡村史料調査や、近世国際関係史の展開、東大国史学研究室の戦後の動向などの論点をさらに深め、関連史料の調査を実施して新たな近世地域社会史研究、あるいは史学史的研究を進めていくことも、研究の目的となる。

3. 研究の方法

本研究では、前研究以来導入してきた「現状記録史料調査法」を導入する点に固有の独自性がある。現状記録史料調査法とは、歴史資料が伝存されてきた状況(周辺環境、建造物及びその内の場所や位置など)の把握と記録、史料単位(容器や箱、文書筆筒や風呂敷、書架など史料の塊)の状況の記録とコード化、及び史料細胞(史料の最小構成要素)への番号付与、史料細胞 1 点毎の精緻な記録(目録)などを段階的に実施する調査方法である。これにより史料群の階層構造把握が容易となり、保存状態の原状復元の手がかりが得られる。これを「啓静文庫」調査に取り入れていく。

山口啓二は、少年時に父・政二を亡くし、祖父・斎藤阿具に育てられ薫陶を得て、多大な影響を受けた。斎藤阿具は二高教授時代、1903 年~1905 年にオランダ、ドイツに留学し、いち早くドイツ実証主義史学に学び、帰国して一高へと転勤し、明治期に始まる近世対外関係史の最初の担い手となった。「啓静文庫」には、山口啓二の青少年期(誠之小学校、高師附中、一高、東大)の一次史料が含まれ、戦時期、さらに敗戦直後における東京大学国史学研究室特別研究生の時期、また 1947 年の史料編纂所入所当時、等の史料などが残される。祖父・斎藤阿具らが担った明治期以来の歴史学の蓄積を踏まえ、山口啓二の歴史学が戦時期を潜ることでどのように形成されたか、それは敗戦直後いかなる展開を遂げることになったかを、一次史料で辿ることが可能となる。こうして本研究は歴史研究者個人のアーカイブズを素材に、そのライフ・ヒストリーを全体史的に把握することが可能となる。こうしたライフ・ヒストリーに即した研究を進展させつつ、合わせて以下の研究主題・ を展開する。

(1) 研究主題 : 地域史研究創出過程の研究

前研究における重要な成果の一つは、敗戦直後、1946 年 12 月に山口啓二によって実施された信濃国箕輪郡の山里・長岡村(現・長野県箕輪町)における区有文書の調査に関する詳細な記録が「啓静文庫」中に見いだされたことにある。これは、戦後歴史学の骨格をなす地域史料調査と地域史研究の創出を告げる画期的調査であった。旧長岡村区有文書調査は、その直後に山口らが東大農学部で古島敏雄を訪ねることで、1947 年 2 月の農村調査研究連絡会結成へと展開する。これらの過程を「啓静文庫」中の一次史料により、詳細に辿る。さらに長岡区有文書の再調査を進めて、上記のような経過の確認に留まらず、旧長岡村や箕輪領全域の研究へと広げる。またこれらの取り組みに併行し、他地域の山里との比較研究も試みる。

(2) 研究主題 : 近世国際関係史の展開についての検討

山口啓二や朝尾直弘(京都大学名誉教授)らを一先駆けとする戦後歴史学における対外関係史研究が進展し、日本を含む近代東アジア世界の歴史的前提として、近世日本と周辺世界との対外関係を見直そうとする研究動向が明確になった。さらに近年の研究動向では、日本をはじめとする近世の東アジア諸国が「海禁」(人臣の自由な海外との交流の禁止)政策で「人臣」(国王とその臣下以外の者)の自由な交流を禁止しつつ、国家間の外交・貿易は維持しながら、300年近い「平和」のもとで生産力の向上と文化・社会の発展を実現し、自生的に近代化の基礎を築いたことが明らかにされ、当該分野の呼称は「近世国際関係史」へと切り替わりつつある。こうした視角の転換には、どのような史学史的な前提が存在するか、斎藤阿具以来の近世対外関係史の検証により、その意味を探る。

4. 研究成果

(1) 「啓静文庫」史料の整理および目録作成作業

1回1日約7時間、1か月に1~2度の頻度で、4年間にわたり実施した。東池袋に荷物の保管場所を借りて「啓静文庫」史料を保管し、それを適宜運び出して作業を行った。整理作業は、資料1点ごとの目録取り(資料名・年代・形状・数量等)と封筒詰めを中心とし、作業場は、立教大学や豊島区の会議室を借用した。作業主体は、本科研の代表・分担者と研究協力者・RA・アルバイトで構成した。令和2年度から4年度の前半にかけてはコロナ感染が拡大した影響で整理作業を実施できない時期があり、最終的には、史料全体(保存箱207箱分)のうちの約87%(箱数181、史料数21,882点)の目録作成を終えるにとどまった。なお整理済みの「啓静文庫」史料の一部は、作業の都合上遠隔地に保管していたが、常時閲覧できるように、途中でこれらを東池袋に移動して一緒に保管し、本格的に史料研究に取り組む体制を整えた。最終的に「啓静文庫」史料は、倉庫から移動するための措置を施して、寄贈に向けての仮置き場所へと移動した。

また「啓静文庫」のうち図書類と分類され、倉庫に預けておいた分を2020年8月に阿智村清内路振興室に寄贈することができた。図書類は書籍用段ボール423箱にも及んだ。一部は未整理であったため、振興室での図書整理作業が必要となり、現地の方々のご協力を得ながら最終年度まで継続した。

なお「啓静文庫」史料の整理作業においては、毎回研究報告を実施し、「啓静文庫」史料に関する新知見や近世史研究の新たな動向などを参加者で共有した。またその概要は、「啓静文庫通信」に掲載され、この通信がほぼ毎月メールによって配信されることで広く共有された。

(2) ワークショップの開催

「啓静文庫」史料の理解を深め、また研究主題の検討を進めるために以下のようなワークショップを各年度に1回ずつ開催した。いずれにおいても多数の参加者を得ることができ、質疑を通じてそれぞれのテーマについて活発な議論が交わされた。これにより研究主題を深めることができた。

・日時：2019年12月16日

テーマ：『梅津政景日記』の世界 山口啓二と戦後歴史学

報告：森下徹「藩政史研究の原点」、吉田伸之「院内銀山の社会構造史研究に学ぶ」

会場：立教大学

・日時：2021年3月20日

テーマ：書評会・荒野泰典著『「鎖国」を見直す』(岩波現代文庫、2019年)を読む

報告：木村直也「荒野泰典『「鎖国」を見直す』書評」、大島昭秀「書評・荒野泰典『「鎖国」を見直す』」、荒野泰典「リプライ」

会場：Zoomによるオンライン形式

・日時：2021年9月4日

テーマ：長岡区有文書を読む

報告：吉田伸之「長岡区有文書と地域の歴史学」、後藤雅知「長岡村の北割と南割」、福重恵子「化政期長岡村の天竜川河原耕地」

会場：Zoomによるオンライン形式

・日時：2022年7月29日

テーマ：メイラン「日欧貿易概史」と転換期近世史像

報告：横山伊徳「メイラン「日欧貿易概史」と転換期近世史像」、木村直也「コメント」

会場：Zoomによるオンライン形式

(3) 長野県上伊那郡箕輪町における史料調査および関連調査

長野県上伊那郡箕輪町において、山口啓二・永原慶二らの農村調査関連史跡と旧長岡村に残された史資料(長岡区有文書)の調査を行った。調査は2019年7月24日から26日、および2021年11月15・16日に、箕輪町長岡区公民館において実施した。2019年7月24日には、現地での地域史講座として、多和田雅保「長岡村絵図を読む」という報告が行われ、地域の方々と研究成果を共有することができた。コロナ感染の影響もあり、調査回数は2度にとどまったが、長岡区に保管される区有文書のほとんどについて、現状記録史料調査を完了することができたと同時に、区有文書の史料写真を膨大に収集することができた。これらは(2)で述べた「長岡区有文書を読む」というテーマのワークショップで大いに活用された。

2019 年度には、この他にも、長岡村と比較対象となる山里集落の研究を進めるため、金沢県立図書館での史料収集調査、および近世国際関係史研究深化のため、長崎での史料収集も実施した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 後藤雅知	4. 巻 19
2. 論文標題 林守・名主家の家督相続と分家ー岩槻藩房総分領の永島家を例にー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立教大学日本学研究所年報	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 後藤雅知	4. 巻 33
2. 論文標題 天保期小山村における質地請戻し争論について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉いまむかし	6. 最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤雅知	4. 巻 61
2. 論文標題 近世房総の山間村落と薪炭生産	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学習院史学	6. 最初と最後の頁 49-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 後藤雅知
2. 発表標題 近世前期の西畑郷とその周辺
3. 学会等名 山里の地域史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤雅知
2. 発表標題 筒森村名主永島家の家督相続と分家
3. 学会等名 山里の地域史研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 塚田 孝	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 416
3. 書名 社会集団史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	多和田 雅保 (Tawada Masayasu) (10528392)	横浜国立大学・教育学部・教授 (12701)	
研究分担者	吉田 伸之 (Yoshida Nobuyuki) (40092374)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・名誉教授 (12601)	
研究分担者	荒野 泰典 (Arano Yasunori) (50111571)	立教大学・名誉教授・名誉教授 (32686)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木村 直也 (Kimura Naoya) (50192018)	立教大学・文学部・特定課題研究員 (32686)	
研究分担者	吉田 ゆり子 (Yoshida Yuriko) (50196888)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	塚田 孝 (Tukada Takashi) (60126125)	大阪公立大学・大学院文学研究科・客員教授 (24405)	
研究分担者	奈須 恵子 (Nasu Keiko) (80287557)	立教大学・文学部・教授 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------